

# 現代中国語における“問”の用法について

今井 俊彦

## 0. はじめに

現代中国語の“問”（質問する）という動詞は一見、取り立てて特殊な意味や用法をもつわけではないように思えるし、学習者の習得状況を見ても、それほど困難の伴うものではない。しかし、中国語の“問”について、わかっているようで実はよくわかっていないこともある。例えば、“問”は“我问你一个问题。”（私はあなたに一つ質問をする。）のように二重目的語をとることができる。中国語の二重目的語文は主に授与を表す場合と取得を表す場合があるが、“問”はそのどちらであるかということさえ明確ではない。この点について、例えば英語の“ask”は“ask you a question”のように二重目的語をとることができる。そして、英語では二重目的語文は基本的に授与の意味を持つため、この例は質問内容という情報を授与すると考えることができる。日本語でも、「質問を投げかける」といった言い方ができることから、質問は授与することが可能なものと捉えられている。しかし中国語では、一般的な授与動詞が直後に“给”を付加することができるのに対し、“問”は“问给”の形をとることができないなど、授与とは異なる現象が観察される。このようなことから、朱德熙 1979 は“問”を、二重目的語をとる動詞のうち、授与でも取得でもない「その他」の動詞に分類している。一方で张伯江 2000 では、二重目的語文における“問”は「質問に対する答えの要求」を授与するとして、あえて授与に分類しているなど、現在まで“問”に対して十分に説得力のある説明が与えられているとは言い難い。

本稿では、大規模な中国語コーパスとして CCL<sup>1)</sup> を利用し、“問”の使用される環境や共起する語を調査・分析することで“問”の用法を具体例とともに俯瞰・整理し、二重目的語をとることのできるいくつかの動詞とも比較しながら、その性質や特殊性を明らかにしていく。

---

<sup>1)</sup> Center for Chinese Linguistics PKU（北京大学中国语言学研究中心）の提供する“汉语语料库”（<http://ccl.pku.edu.cn>）を指す。なお、特に注記のない限り、本稿における用例は、インフォーマントの確認を経た作例を除き、全て CCL による。ただし、下線は筆者によるものである。

## 1. 目的語を二つとる場合

授与動詞が二重目的語文を構成する場合、動詞の直後には授受される事物の受取手として、ヒトを表わす名詞句がおかれ、授受される事物を表わす名詞句はその後におかれる。このとき、ヒトを表わす名詞句を間接目的語、事物を表わす名詞句を直接目的語という。例えば授与動詞“给”（あげる）を用いた(1)において、“你”（あなた）が間接目的語、“一本书”（一冊の本）が直接目的語である。同様に、“问”も二重目的語をとることができ、(2)においては、質問を受けるヒトを表わす“你”が間接目的語であり、質問の内容を表わす“一个问题”（一つの質問）が直接目的語となる。

(1) 我给你一本书。(私はあなたに一冊の本をあげる。)

(2) 我问你一个问题。(私はあなたに一つ質問をする。)

本稿では以後、間接目的語を“IO”、直接目的語を“DO”と表記する。

“问”は文法的には二重目的語をとることができるものの、実際の用例として「“问”+IO+DO」の形式となる文は必ずしも多くない。本稿の調査では、動詞“问”の用例数は12万程度あったが、そのうち二重目的語文となるものは500例にも満たなかった。割合にすれば0.5%未満ということになるが、この割合は、授与動詞“送”の用例数でも同じような結果であった。二重目的語文の用例は全般的に少なく、“问”だけが特に少ないわけではないことを確認しつつ、いくつか例を見てみよう。

(3) 他们会在你入学时给你做个测试,非常短、非常简单的测试,他们会问你一些问题,你才7岁,所以问题不会很难。(姚明《我的世界我的梦》)(彼らはあなたが入学する時にテストをするでしょう。とても短く、とても簡単なテストです。彼らはあなたにいくつかの質問をするでしょう。あなたはまだたったの7歳ですから、質問は難しいものではないでしょう。)

(4) “我可以问你一件事吗?”(于晴《红苹果之恋》)(「あなたに一点質問してもいいでしょうか?」)

(5) “好吧!铜驼,我知道你是个很拘谨的人,因此我也不跟你客气了,我想问你一句话。”(古龙《圆月弯刀》)(「わかりました。銅駝、私はあなたが謹厳実直な人だと知っています。だから私も遠慮しません、私はあなたに一言たずねたいのです。」)

授与動詞が二重目的語をとる場合、一般的に DO には“一本書”のように「数詞＋量詞＋名詞」からなる名詞句がおかれる。動詞が“問”の場合も、(3)～(5)のように、DO は「数詞＋量詞＋名詞」となっているが、ここで問題となるのは、“一个问题”のような DO は、あまり具体的な情報を持たないということである。例えば授与動詞の DO が“一本書”であれば、本を授与することがわかるが、“一个东西”であれば、それだけでは何を授与するのかわからない。これと同様に、“问”の DO が“一个问题”であれば、何を質問するのかわからない。何かを質問するというだけなら、そもそも動詞“问”にその意味が含まれていることから、“一个问题”のような DO には、実質的な情報はほとんどないといえる。そして、具体的な質問の内容については、(6)のように“：”のような記号を用いるなどして、二重目的語文の外に出す形になることがほとんどである<sup>2)</sup>。

- (6) 最后我再问你一个问题：你挨打那天你父亲毫不知情？（王朔《我是你爸爸》）（最後にもう一つあなたに質問します。お父さんは、あなたが殴られた日を全く知らなかったのでしょうか？）

このように、“问”を用いた二重目的語文では、DO に具体的な質問の内容が来ることは非常に少なく<sup>3)</sup>、ほとんどの場合は実質的な情報を持たないことから、どちらか

---

<sup>2)</sup> 次の(a)のような例もいくつか見られたが、これは“我帮助他学好英语。”（私は彼の英語が上達するよう手伝う。）のような兼語構造の一種であるとも考えられるし、“你吃饭没有”が“问”の単一目的語と考えることもできる。さらに、二重目的語文の DO 部は一般的に名詞句であることから、本稿においては、(a)のような例は二重目的語文とは見なさず、考察の対象外とする。同様に、(b)のように DO 部が“”で囲まれていたり、“：”で区切られているような文は、個別に見れば二重目的語文と認められる例もあるかもしれないが、その判断基準を明確にするため、本稿においては一律に二重目的語文とは見なさず、考察の対象外とする。

- (a) 中国人见面喜欢问：“你吃了吗？”其意倒不在于真的问你吃饭没有，只是打个招呼，表示礼貌。（《1995年人民日报》）（中国人は顔を合わせるとよく「食事をしましたか？」と尋ねる。その意味は本当に食事をしたかどうかを聞いているのではなく、ただあいさつをして礼儀を示しているだけなのである。）
- (b) 有人问他：“为什么不出国呢？”（《1994年报刊精选》）（ある人が彼に「なぜ出国しないのですか？」と尋ねた。）

<sup>3)</sup> DO 部が質問内容となる二重目的語文としては、次の(c)のようなものが見つかった。

- (c) 我问他们为什么，他们的回答是，……（《1998年人民日报》）（私は彼らになぜかと尋ねた、彼らの答えは……）

たとえば IO の方に意味の重点があると考えることができる。これは、目的語が一つの場合でも、例えば“送你”が第一義的には「あなたに贈る」ではなく「あなたを送る」のように、DO として理解されるのに対し、“问你”は「あなたに質問する」という、IO の意味にしかないといった、動詞本来の意味や性質にも関連すると考えられる。また、“问”と同じく二重目的語をとることができ、物理的な事物ではなく情報の伝達を表わす“告诉”（伝える）は、“告诉你”が「あなたに伝える」という意味にしかないという点でも“问”と共通している。そして、“告诉”は情報の受領者である IO との結びつきが強く、「何を」ではなく「誰に」に重きをおいた動詞でもある。このように、二重目的語文においては、“问”と“告诉”は似た特徴を持つといえる。

## 2. 目的語を一つとる場合

次に、“问”が目的語を一つだけとる場合の用例を見てみたい。1 章で用いた“IO”や“DO”という表記は、本来は二重目的語文における二つの目的語を区別するための用語であるが、本稿では便宜上、目的語が一つしかない場合など、二重目的語文以外の文においても、質問を受けるヒトを表わす目的語を“IO”、質問の内容を表わす目的語を“DO”と表記することとする。なお、二重目的語文における DO は基本的に名詞性のフレーズであるが、目的語が一つの場合の例では、DO 部には名詞句に限らず、動詞を含む質問文などがくるものもあり、これらも全て DO と表記する。

まずは、“问”の後に DO のみがおかれる例を見てみよう。

- (7) “我到中国去过两次,我理解你为什么会问这样一个问题。”(《1994 年人民日报》)  
(「私は中国に二度行ったことがあります、あなたがなぜそのような質問をするのか理解できます。」)
- (8) 可是舌尖发硬,吐字不清。“冰棍”说成“冰被”;还不会使用人称,别人指着她穿的袜子问谁给买的,她指着母亲说:“咱妈给玉玉买的。”(《1994 年报刊精选》)(しかし舌先が硬く、吐き出す言葉も不明瞭で、“冰棍”(ア<sup>ビン</sup>グ<sup>エン</sup>アイス)を“冰被”(ア<sup>ビン</sup>ベ<sup>イ</sup>イ)と言ってしまう。まだ人称を使うことができず、彼女が履いている靴下を指して、誰が買ったのか尋ねても、彼女は母親を指さして「うちの母が玉玉に買ってくれました」と言う。)
- (9) 英英高兴地跑进了里屋,但过了一会只拿着小熊和小兔出来,把小猫忘掉了。妈妈

问盒子里还有什么，英英兴奋地说还有小狗、小娃娃、小马和小车子等等。（《儿童心理》）（英英は嬉しそうに奥の間に駆け込んだが、しばらくすると子熊と子兎だけを持って出てきて、子猫のことは忘れてしまった。お母さんが箱の中にはほかに何があるか尋ねると、英英は興奮気味に、子犬、人形、子馬と車などがあると言った。）

“问”の目的語としての DO は、他の多くの動詞の目的語と同様、主に名詞からなる名詞句である(7)のような場合や、(8)のように動詞を伴った名詞句である場合もあるが、(9)のように疑問文そのものがおかれる場合も多い。こういった例も含めて、「“问”+DO」となる例は非常に多く見つかった。では次に、“问”の後にヒトを表わす IO のみがおかれる例を見てみよう。

- (10) 没想到他竟是这样干上这一行的：一天，他从报刊上看到一则某公司招聘信息员的启事，遂按要求寄去一笔钱和照片，该公司很快答复他成立公司驻该县办事处，并任命他为经理。笔者问他，用户买了假信息怎么办？（《1994 年人民日报》）（まさか彼がそんな経緯でこの仕事を始めたとは。ある日、彼は新聞である会社の情報担当者募集の広告を見て、要項にある金額と写真を送ると、その会社からすぐに返事が来て、その県に事務所を設立し、彼を所長に任命した。筆者は彼に尋ねた、顧客が偽の情報を購入したらどうしますか？）
- (11) 我们试探着问她：“你怎么不成家？”（《1994 年报刊精选》）（私たちは試しに彼女に聞いてみた。「あなたはなぜ結婚しないのですか？」）
- (12) 海萍说：“我喜欢妹妹！我可以给她扎小辫！”奶奶嘘了海萍一声：“就是你！当时问你，你说喜欢弟弟，现在又喜欢妹妹！”海萍一扬脸：“我都喜欢！”（六六《蜗居》）（海萍が「私は妹が好き！彼女におさげを結ってあげる！」と言うと、おばあちゃんはため息まじりに海萍に「あなたったら、前に聞いた時は弟が好きだと言っていたのに、今は妹が好きなのね！」と言った。海萍は顔をあげると「どっちも好き」と答えた。）

「“问”+IO」となる用例は、「“问”+DO」となる例と比べると4分の1程度の数しかなく、かなり少なかった。さらにその用例は、IOの後に(10)のような“，”や、(11)のような“：”がおかれて文が区切られ、その後に改めて質問内容を表わす文が続く

ような形式であったり、(12)のように、文脈から見て質問内容は既出であり、後続する文には質問に対する答えがくるようなものが大部分を占めていた。つまり、形式的には「“問” + IO」となる例でも、実際には DO に相当する質問内容がすぐ近くに配置されていたり、文脈から既知であるものがほとんどであり、“問” が本当に IO のみを目的語としてとる実例は極々少数であった。本稿の調査で見つかった用例は、次の(13)のように繰り返しで用いるものや、(14)や(15)のような、質問内容にこだわらないようなもの、発話時点で具体的な質問内容のないものであった。

- (13) 数学是成洁的强项，她准备好好考、多拿分。交卷后，老师关切地问她，同学也关心地问她，她一言不发，闷着头含着泪回家。（《1994 年报刊精选》）（数学は成潔の得意科目で、彼女はしっかりと試験勉強し、いい点数を取ろうとしていた。答案提出後、先生が気にかけて声をかけ、クラスメイトも心配してたずねたが、彼女は何も言わず、うなだれて涙ぐみながら黙って家に帰った。）
- (14) 张柏芝是个很随和、很热情的人。采访之前她告诉鲁豫：“没关系的，你什么都可以问我。”相反她的助理却显得很紧张，很怕张柏芝会说错话的样子。（红伶《鲁豫有约》）（張柏芝は穏やかで親切な人だ。インタビューの前に彼女は魯豫に「大丈夫、何でも聞いてください。」と言った。それとは反対に、彼女のアシスタントはとても緊張していて、張柏芝が間違ったことを言うかもしれないと恐れている様子だった。）
- (15) 我赶忙回答：“我找她有点事。”女医生又呈怀疑状，说：“有什么事就问我吧。”（《1994 年人民日报》）（私が慌てて「用事があって彼女を探しています。」と答えると、女医さんはまた怪訝な様子で「何かあったら私に聞いてください。」と言った。）

これまでのことをまとめると、“問” が目的語を一つだけとる場合、それは DO であることが圧倒的に多く、その際 IO に相当する語句を近くにおく必要はない反面、“問” の目的語が IO である用例は少なく、そのうちのほとんどが DO に相当する語句を近くに配置している、ということになる。つまり、大多数の用例が実質的に DO を必要としているということがいえる。“問” が目的語を一つとる場合、文法的には IO と DO どちらの目的語もとることができるが、DO に相当するような語句が近くになく、純

粹に IO のみを目的語としてとるものは、実際の用例としては極々少数しかない。この事実を言い換えるなら、“問”は IO か DO かを完全に自由に選択することができるわけではなく、IO よりも DO、つまり「誰に」よりも「何を」尋ねるのが多用される傾向にあるといえる。

そもそも「質問する」という行為は、本来的に答えを求めて行うものであり、動作の前には何らかの疑問が生じている、つまり質問内容が先にあると考えるのが自然であり、“問”の目的語として DO の方が優勢であるのは理にかなっている。逆に、何を質問すればいいのかわからない状態で、誰に質問するのかわかりだけをいうことは通常あまりないため、純粹に IO のみを目的語としてとる用例が少ないこともまた自然なことであるといえよう。

しかし、1章で見たように、“問”を用いた二重目的語文では、むしろ IO に意味の重点がある。一方で、二重目的語文において“問”と似た特徴を持つ“告诉”は、主に IO への情報伝達を表す動詞であり、目的語が一つの場合も、DO をとることはあまりなく、IO とばかり結びつく<sup>4)</sup>。つまり、“告诉”は目的語が二つでも一つでも、一貫して IO に重点があるのに対し、“問”は二重目的語文においては IO の方に意味の重点があるが、目的語が一つの場合は DO が選択される。このように、“問”の目的語に対する振る舞いには“告诉”のような一貫性はないことが明らかになった。

従来の“問”に対する研究の多くは、二重目的語文の文脈において行われ、“我问你一个问题。”のような作例しか見ずに“問”を分類しようとする傾向があった。しかし、本稿の調査結果から、“問”の性質を理解するためには、二重目的語文に限らず、様々な用例を見ていくことも必要ではないかと考えられる。

### 3. “不”を用いた否定の場合

本章からは、否定文における“問”がどのような目的語をとるのかを見ていくことで、肯定文の場合と比べて違いがあるのかを確認したい。まずは“不”を用いた否定文から見ていく。“不”を用いた否定文では、“問”の後に目的語がある場合、それが DO である場合の方が多く、IO である例は DO をとる例の半数以下しかなかった。ただし、2章で見た肯定文の場合に比べれば、IO をとる例の割合は増えている。また、二重目的語をとる例はほとんど見つからなかった。まずは DO をとる例から見てみよ

---

<sup>4)</sup> この点に関しては今井 2020 を参照。

う。

- (16) 雷振邦说“没管过女儿的事”，女儿也说父亲从来不问她的事，倒是妈妈想按着女儿的脖子让她承继父业。（《1994 年报刊精选》）（雷振邦は「娘のことにかかわったことはない」と言った。娘も父が自分のことを聞いてくれたことはないと言っており、むしろ母親が娘の首根っこを押さえて父の事業を継がせようとした。）
- (17) “陈毅同志，这位宋振庭先生，你知道是个怎么样的人么？”慧素见张伯驹一直不问这个问题，忍不住自己问了出来。（《1995 年作家文摘》）（「陳毅同志、この宋振庭さんがどんな人なのか知っていますか？」慧素は張伯駒がずっとこの質問をしないのを見て、思わず自分から質問してしまった。）
- (18) “哦！怪不得你直到现在还不问我的名字。”（《读者（合订本）》）（「ああ！どうりで今まで私の名前を聞かなかったわけだ。」）

次に、IO をとる例を見てみよう。

- (19) 我甚至不知道他到底有没有老婆，因为他总是一个人独来独往，住在酒店里，不像个有家累的男人。我从来不问他，甚至也不愿往这方面猜测。（《1995 年作家文摘》）  
（私は彼に奥さんがいるのかどうかさえ知らなかった。なぜなら彼はいつも一人で出入りし、ホテルに寝泊まりし、家族の負担があるような男には見えなかったからだ。本人に聞いたこともないし、そういう方面の推測をしようとも思わなかった。）
- (20) 据王维告诉笔者，此后半年多光景，姚文元几乎不去《解放日报》社。虽说王维跟他同住一幢楼，平常却很少见到他。即使见到他，他也从不说起在写什么，王维也就不问他。（《1995 年作家文摘》）（王維が筆者に言うには、それから半年あまり、姚文元はほとんど解放日報社に行かなかった。王維は彼と同じ建物に住んでいたが、日ごろ彼を見かけることはほとんどなかった。たとえ見かけたとしても、彼が何を書いているかを口に出すことはなかったし、王維も聞かなかった。）
- (21) 科诺夫尼岑立刻明白，这一情报十分重要，不能有丝毫拖延。这一情报是好还是坏，他不去想，也不问自己。（列夫・托尔斯泰《战争与和平》）（コノヴニツィンは、この情報が少しの遅れもあつてはならない重要なものだとすぐにわかった。この情報



がよいものか悪いものかは、彼は考えようとしなかったし、自問もしなかった。)

2章で見た肯定文の場合とは異なり、「不問」+IOの形式では、(20)や(21)のように、IOで文が終わる例が比較的多く見つかった点が特徴的である。この点については、日本語で考えても、「彼に聞いた」と言えばその後は聞いた内容やその答えを表わす言葉が続くのが普通であり、そういった語句を伴わずに文が終わるのは不自然であるのに対し、否定形で「聞かなかった」と言えばそこで話が終わっても不自然ではない。このような理由で、肯定文では非常に少なかった、純粹にIOのみを目的語としてとる例が、否定文においては比較的多く見られ、IOをとる用例全体も肯定文の場合よりも多くなったと考えられる。

最後に、二重目的語をとると思われる例を見てみよう。

- (22) 知道她说话不方便，见面后就不问她什么，牧惠去时带了一张11月12日的《南方周末》，上面载有一篇评论《露莎之路》的文章，交给了她。(《1996年作家文摘》)  
(彼女が(脳梗塞で)うまく話せないのを知っていたので、会っても何も聞かず、牧惠は『ルサの路』の評論が載っている11月12日の『南方週末』を持って行き、彼女に渡した。)
- (23) “您知道这把剑的由来吗？”看着黑骑士的脸，妮斯不得不问他这个问题。(水野良《罗德岛战记》)(「この剣の由来をご存じですか？」黒騎士の顔を見て、ニースはそう問いかけざるを得なかった。)

本稿の調査では、二重目的語をとると思われる例は上記の2例だけであった。しかし(22)はDOに相当する部分が不定を表わす疑問詞のみであり、(23)は二重否定の一部であるなど、“我问你一个问题。”のような二重目的語文の規範的な形式からは少し離れた形となっている。否定文では通常、目的語を二つもいう必要がないことから、二重目的語文の否定文の用例は非常に稀であるが、調査結果から、この点においては“問”も他の動詞と同様の傾向があることがわかる。

#### 4. “没”を用いた否定の場合

次に、“没”を用いた否定文の例を見てみたい。

- (24) 晚上海萍一脸忧伤地回家，坐在沙发上不说话。苏淳回来的时候，海萍都没问一句。(六六《蜗居》)(夕方、海萍が悲しそうな顔で家に帰り、ソファに座って何も言わなかった。蘇淳が帰ってきてても、海萍は何も聞かなかった。)
- (25) 正争论间，一辆三轮从黑暗角落里蹬出来。为了不使银环伴送，没问价钱，他就上了车。(李英儒《野火春风斗古城》)(言い争いの最中、暗がりから三輪車が飛び出してきた。銀環を見送りに付き添わせないために、彼は値段も聞かずに乗り込んだ。)
- (26) 腊月三十中午，有的人家在吃团圆饭了，老孔才来将他们保出去。老孔什么也没问他们。他们知道自己上了老孔的圈套，也不便说什么。(刘醒龙《菩提醉了》)((旧曆の)大晦日のお昼、一家団欒の食事をとる家もある中、老孔はようやく彼らを引き取りに来た。老孔は彼らに何も聞かなかった。彼らは自分が老孔の罠にはまったことを知り、やはり何も言えなかった。)
- (27) 韩妈没提她母亲死了的事，九莉也没问她。(张爱玲《小团圆》)(韓さんは彼女の母親が亡くなったことを言わなかったし、九莉も聞かなかった。)

“没”を用いた否定文については、“问”が目的語をとるとき、それが(24)・(25)のようにDOである場合よりも、(26)・(27)のようにIOである場合の方がむしろ用例数が多かった。“不”を用いた場合でも、IOのみを目的語とする例は肯定文の場合より多く見られたが、“没”を用いた場合にはさらに多くなったのである。これは、“不”を用いた否定は、「聞かない」という動作主の意思を表わすことがあるが、“没”は基本的に過去の否定であり、「聞かなかった」という客観的事実を表わすことになるため、3章で述べた、否定文はIOのみでも文終止しやすいという傾向が、“不”を用いた場合よりも顕著になった結果ではないかと考えられる。

このように、否定文でも“不”を使う場合と“没”を使う場合とで、目的語の選択に違いが出るというのは、実際に調査を行って見ないとわからない、興味深い現象である。そして、目的語としてIOを選択する例が“不”を使う場合よりも増えたことに関連してか、二重目的語をとると思われる例も、“不”を使う場合よりも多く見つかった。

- (28) 黄青道：“你还没回答我的问题。”傅贵一愣：“你没问我问题嘛。”(张卫《你别无

选择》) (黄青が「あなたはまだ私の質問に答えていません。」と言った。傅貴はぼかんとして言った。「あなたは私に質問していないじゃないですか。」)

(29) 陈长老道：“可惜帮主没问他姓名，否则也好让大伙儿知道，江南武林之中，有这么一号人物。”(金庸《天龙八部》)(陳長老は言った。「ボスが彼の名前を聞かなかったのは残念です、そうでなければ江南武術界にこんな傑出した人物がいることを皆に知らせることができたのに。」)

(30) “啊哟，我可没问他名字，只知道外号叫作‘大头鬼’。”(金庸《神雕侠侣》)(ああ、私は彼の名前を聞いていません。あだ名が「大頭鬼」だということしか知りません。)

二重目的語文における DO は数量詞を伴うのが基本であるが、否定文では、次の(31)のように数量詞を伴わないことも多い。

(31) 我没告诉你电话号码。(私はあなたに電話番号を伝えていない。)

この点については“问”の用例でも同様であり、(28)のように数量詞のないものばかりであった。そして、数量詞がないことで、(29)・(30)のような“问”の特殊な用例が明らかになったのである。

例えば(31)における“电话号码”は“我”のものであり、これを“我没告诉你的电话号码。”と言い換えることはできない。(28)も同様に、文の意味を変えずに下線部を“没问我的问题”と言い換えることはできない。しかし(29)では、“帮主没问他姓名”を“帮主没问他的姓名”としても基本的な意味は変わらない。(30)も同様である。このように IO と DO の間に“的”を挿入しても基本的な意味が変わらないのは、“我偷了他一本书。”(私は彼から本を一冊盗んだ。)のような、取得を表わす二重目的語文の特徴である<sup>5)</sup>。

“问”を用いた二重目的語文は通常、“我问你一个问题。”のように、“一个问题”が“你”に属するものではないため、IO と DO の間に“的”を挿入することはできない。

---

<sup>5)</sup> 話は少し逸れるが、“我偷了他一本书。”にそのまま“的”を加えた“我偷了他的一本书。”のような文、つまり“的”と数量詞が同時にあらわれるような文は、実際の用例としては少数であり、“的”を加える場合は通常“我偷了他的书。”のような形になる。詳しくは今井 2019 を参照。

これは、授与動詞や“告诉”を用いた二重目的語文と同じ意味構造である。にもかかわらず、“问”が(29)・(30)のように取得動詞を用いた場合と同じ意味構造の文をも構成できることは、本稿の調査により発見された、“问”の新たな特徴であり、“问”が授与的な側面と取得的な側面の二面性を持つことを表わす重要な用例である。

## 5. “问”の二面性

前章では、否定文において数量詞が必須の要素ではないことから、(29)・(30)のような例が見つかったが、改めて用例を精査すると、少数ではあるが、肯定文でも DO 部に数量詞が付加されていない場合において、次のような例が見つかった。

- (32) “我这人心直口直，初次见面咱就把话亮明喽。培养和教育孩子是教师的工作和责任，应该凭良心。谁也别给我送东西。有人问我家庭地址，你别问，问我不告诉。我家有三个闺女，一个比一个倔，你敢送，她就敢给你提到门外去……”（《1994 年报刊精选》）（「私は思ったことをそのまま口に出す性格なので、初対面ですがはっきりさせておきましょう。子供たちを育て教えるのは教師の仕事であり責任であり、良心をもって行うべきです。誰も私に贈り物をしてはいけません。自宅の住所を聞く人がいるかもしれませんが、あなたは聞かないでください、聞いても教えません。家には三人の娘がいますが、どの子も頑固で、あなたが何か贈ろうとしても、きっとドアの外まで持って行って突き返すでしょう……」）
- (33) 一人声音宏大，说道：“阁下高姓？”另一人道：“你不用问我姓名，我只问你，这单镖接是不接？”（金庸《倚天屠龙记》）（一人が大きな声で「あなた様のお名前は？」と言った。もう一人が「名前を聞く必要はありません、私はこの鏢を受け取るのか受け取らないのかを聞きたいだけです。」と言った。）
- (34) 分手时我问他姓名，他说复姓公冶，单名一个‘乾’字。这不是乾坤之乾，而是乾杯之乾。（金庸《天龙八部》）（別れ際に彼の名前を尋ねると、彼は姓は二字で公冶、名は一字で「乾」と答えた。「乾坤」の「乾（けん）」ではなく、「乾杯」の「乾（かん）」である。）
- (35) 军分区领导多次劝他到医院检查，可他每次只到部队卫生所拿一点止痛药就了事。问他情况，他总是说：“胃有点不舒服，没关系。我年轻，睡一觉就好了。”（《1998 年人民日报》）（軍分区の指導者は何度も彼に病院で検査を受けるように勧めた、

しかし彼はいつも部隊の診療所で少し鎮静剤をもらうだけで済ませていた。彼の状態を尋ねると、彼はいつも「胃が少し調子悪いですが、大丈夫。私は若いから、ひと眠りすればよくなります。」と言った。）

- (36) 他们问了他姓名、籍贯和年龄，打了手印，解下他身上的皮带，取出他口袋里的人民币和一把木制的手枪。（周而复《上海的早晨》）（彼らは彼の名前，本籍と年齢を尋ね、指紋をとり、彼が身に着けていたベルトを外し、彼のポケットから人民元と木製の拳銃を取り出した。）

これらの例も、前章の(29)・(30)と同様、“问”の取得的な用法であると考えられる。そして、肯定文においても、“问”がこのような文を構成しうることは、“问”が授与的な側面と取得的な側面の二面性を持つことを表わす重要な事実である。

例えば、授与を表わす典型的な動詞“送”を用いて、“送他姓名”のようなフレーズを作ってみたとして、それをどのように解釈しても、「彼の名前を（他の誰かに）おく」という意味にはならないことから、“问”の特殊性が理解できる。

また、二つの目的語の関係が取得の二重目的語文と同じであるということは、文全体として取得のような意味を表わすことになるが、(34)では、「質問する」という動作行為の結果として、「彼の名前」という情報を取得すると考えることができる。これは、“问”が単に情報を伝えるのではなく、返答を求めることを含意していることによるもので、“问”という動詞の特殊性が反映された用法であるといえる。

ところで、授与と取得両方の意味で二重目的語文を構成できる動詞としては、“借”のような多義動詞がある。“借”は一つの動詞で「貸す」と「借りる」という、貸し借りに関連する双方の立場の動作を表わすことができ、次の(37)は「あなたに本を一冊貸す」という意味にも「あなたから本を一冊借りる」という意味にも理解しうる。

- (37) 我借你一本书。

この場合、「貸す」であるのか「借りる」であるのかは、動作主がどちらの立場であるかを、主に文脈によって判断することになる。

一方で“问”は、“借”のような多義動詞ではなく、動作主の立場は一貫して質問する側であるが、質問をするという動詞本来の意味に重点があれば、通常の解釈、つま

り“我问你一个问题。”のように、二つの目的語の関係が授与の二重目的語文と同じように理解される。そして、質問の結果として、目的とする情報を取得するというところに重点があれば、(32)～(36)のように、取得の意味に理解することが可能となる。このように、“問”という動作行為そのものに重点があるのか、その結果に重点があるのかという点に、二面性を生じさせうる要因があるのだと考えられる。

## 6. おわりに

これまで見てきたように、“問”は二重目的語をとる場合、IOに意味の重点がある一方で、目的語が一つの場合には基本的にDOが選択される。ただし、目的語が一つの場合でも、“不”を用いた否定文では、肯定文に比べIOが選択される比率が上がり、さらに“没”を用いた否定文では、むしろIOが選択されることの方が多くなる。このように、動詞がおかれる環境によって、目的語の選択に差が出る点は、情報伝達を表わす“告诉”が一貫してIOをとるのとは異なる“問”の特徴である。

また、“問”が表わす「質問する」という行為は、聞き手がその質問に答えることを期待し求めることでもあり、この点が一般的な授与動詞と大きく異なるところである。

“問”の特殊性を表わす例をもう一つ挙げると、“请问”(お尋ねします)というフレーズは、中国語学習の初期に、動詞の“問”単体よりも先に学ぶこともある慣用表現であるが、「“请”+動詞」からなる慣用表現は、一般的に相手に何らかの動作を促す意味で用いられる。つまり、通常は“请坐”(お座りください)のように、聞き手が“坐”(座る)の動作主となるのであるが、“请问”の場合は発話者が“問”の動作主となる。これについては、例えば小学館の『中日辞典(第3版)』の“请”の項目に、「“请问”の“请”は文語の副詞に由来する」と説明されているが、“请问”だけがこの用法で現在も口語で多用されている理由の一つには、“問”が単に発話するだけの動作を表わすのではなく、聞き手が質問に答えることを期待し、返答を求めることを含意するという、ある種の使役的な側面を有する動詞であることで、“请问”全体として相手に何らかの動作を促す意味になるという点が関係していると考えられる。

このように、“問”は時にIOを重視し、時にDOを重視する特徴と、単なる発話ではなく質問に答えることを求める意味を持つことが、5章で見た(32)～(36)のように、IOとDOの意味関係が取得の二重目的語文と同じ構造となる文を構成できることにもつながっている。これらの用例は“問”の二面性を表わす重要な発見である。

“送”などを用いた典型的な授与義の二重目的語文が、具体的・物理的な事物の授与を表わすのに対し、“告诉”を用いた二重目的語文は情報の授与を表わす。一方、“偷”などを用いた典型的な取得義の二重目的語文は、具体的・物理的な事物の取得を表わすが、授与の“告诉”に対応するような、情報の取得を表わす動詞は従来指摘されていない。本稿では、“问”が情報の取得に相当する機能を有していると考え。考えてみれば、質問するという事は、情報を取得するための一般的かつ有効な手段であることは間違いなく、これまで空白であった、情報の取得を表わす動詞に、“问”を位置づけるのはむしろ自然なことのようと思われる。またこれにより、授与と同じく取得の二重目的語文についても、その用法を物理的な事物の取得から、情報の取得へと拡張していく様子を明らかにすることができた。

ただし、“问”の取得的な用法の例は必ずしも多くなく、今後も使用状況を観察していく必要がある。また、“问”を用いた二重目的語文は“我问你一个问题。”のように、IOとDOの関係が授与義と同じとなる用法が基本であることに変わりはない。

本稿の考察を経て、“问”は授与と取得のどちらか一方のみに分類することはできない動詞であることが明らかになった。授与のようであり取得のようでもあるこの動詞をどう分類するのかについては、他に類似した性質をもつ動詞があるのかどうかにも関わる問題であり、今後の課題としたい。

〈参考文献〉

- 北京商務印書館・小学館 2016.『中日辞典第3版』（東京：小学館）。  
今井俊彦 2019.「取得動詞と共起する数量詞について」、『饕餮』第27号：59-71頁。  
今井俊彦 2020.「关于予以介词“给”以及“动词+给”的用法」、『中国語文法研究』2020年卷：110-122頁。  
张伯江 2000.「现代汉语的双及物结构式」、『中国语文』第3期：175-184頁。  
朱德熙 1979.「与动词“给”相关的句法问题」、『方言』第2期（1999.『朱德熙文集』第二卷：231-247頁，北京：商务印书馆）。

(いまい としひこ)